

明治二十二年三月二十二日內務省許可
明治二十六年八月六日發行



金澤醫學會雜誌

第五卷第三十九號

金澤醫學會

金澤醫學會雜誌第五卷第三十九號目次

◎金澤醫學會

◎二回ノ膀胱新生物實驗

會員 山田謙治

◎法醫學鑑定實例(第一)

會員 篠尾明濟

◎頑固ナル陰莖ヘルペス「治驗

會員 松本善次郎

◎實驗雜俎

◎淋疾ノ療法ニ就テ

會員 松山五七郎

◎内外新説

◎簡便穿刺器

◎治療叢談

◎尿中胆色素証明ノ鋭敏ナル試驗法

◎外傷后ノ神經障害ニ於ケル「マンコップ」氏ニ症狀ノ
價値ニ就テ

◎「トリオナル」ニ就テ

◎レブラ知覺麻痺ニ神經牽引法

◎「トイクリン」

◎雜 錄

◎本會記事

◎醫海時事

◎廣 告

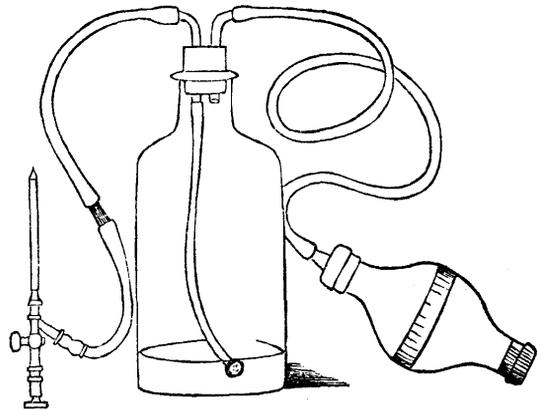
後尙ホ此研究ニ怠ラサルヘシ諸君若シ時アラハ此藥液
ヲ試ミテ其成績ヲ報スルノ榮ヲ賜ラハ獨リ余ノミノ幸
ニ非ラサルナリ

内 外 新 説

◎簡便穿刺器

(Dents. med. Wochens. NO. 1893.)

Dr. Canrad Alexander氏ハ近時ウンフェルリヒト氏ノ穿
刺裝置ヲ改良シテ左圖ニ示スカ如キ輕便ナル「ポンク
ションアップラート」ヲ發明セリ其構造ハ一個ノ硝子瓶
ト之レニ連通スル二個ノゴム管トヨリナル其一端ニハ
圖ノ如キ單一ナル穿刺針ヲ有シ他端ニハ護謨球ヲ有ス
而シテ先チテ針管ヨリ一定量ノ液体ヲ「ゴム」球ニ
由テ瓶中ニ吸引シ置キ而シテ後胸腔若クハ他ノ体腔ニ針



in及Dientaroy氏裝置ノ如ク復雜ニアラサレハ一人ノ介
者ヲ要スルコトナク又實地醫家ニアリテモ直チニ之ヲ調
製シ得ルニアリト抄譯者曰、硝子瓶ニ度目ヲ劃スルキ
ハ直チニ液量ヲ知ルコト得テ益々便利ナラン (M. I.)

ヲ刺入ノゴム球
ノ壓搾ニ由リ滲
出液ヲ瓶内ニ吸
引スルナリ此ノ
如クスルキハ通
常ノ凝固物ノ如
キハ容易ク穿刺
管ヲ通過シテ液
体ノ流出ヲ障害
スルコトナシト此
器ノ得點ハ Potts

◎治療叢談(九)

界外仙史

(一)子癩ノ療法、Dachagaz氏ハ子癩發作ヲ抑制スル爲メ格魯刺兒ノ皮下注入ヲ稱用セリ其量ハ〇・五—一、〇ニシテ通常疼痛甚シキヲ以テ之レニ莫比若クハ「コカイ」ヲ伍用スルヲ可トス

(二)遺尿ノ療法、Dr. White氏ハ遺尿ニ安息酸曹達水楊酸曹達各一、〇莫岩越幾斯二滴桂皮水一二〇、〇ヲ一日四—五茶ヒヲ用スルヲ稱用セリ

(三)感冒ノ療法、Onimus氏ハ感冒ニCitronen汁ノ卓効アルヲ稱セリ、

(四)「エビテルミン」ノ合劑、S. Kohn氏「エビテルミン」Epidermiaヲ蜂蠟、水、「グリセリン」ノ合劑トシテ用フルキハ實用ニ適スト云ヘリ、
(五)「トリプロムフェノール」Dr. F. Grimm氏ハ「ト

リプロムフェノール」[Tribromphenol]ヲ虎列刺、下痢、赤痢十二指腸虫、條虫等ニ應用シテ効能アルヲ説ケリ其作用ハ防蟻ヲ有スルニ由ル此藥ハ酸性ノ胃液中ニアリテハ溶解セス腸ニ至リテ初メテ溶クルヲ以テナリト

(六)痒性皮膚病ト「メントール」Colombini氏ハ神經性痒感甚シキ者ニ五—十%ノ「メントール」アルコール溶液ヲ稱用セリ
(七)結核性狼瘡ニ沃度仿謨、M. Chout氏ハ此症ニ沃度仿謨ノ五%合劑ヲ以テ持續的ノ局所塗法ノ効アルヲ報セリ、

(八)鼻出血ノ療法、Weser氏ハ鼻出ニ「アンチヒリン」液若ク同粉末ヲ綿ニ浸シテ鼻孔ニ栓塞スルノ偉効アルヲ稱セリ

(九)善良ナル沃度合劑、Fournier氏ハ左方ヲ用フ(單合劑別三五〇〇) Annette de Bordeaux 一五〇、〇沃度加里

二五、〇右一食中一、〇ノ沃度加里ヲ含有ス

(十)百日咳ノ療法 Ullmann, Schippers, Binz氏等ハ「ブ

ロムフォルム」ノ効アルヲ喋々シUnger氏ハ規尼涅ノ
中量(〇、五)ヲ與フルヲ説ク

(十一)バセドウ氏病 ニ甲狀腺摘出術ヲ行フ事ハ近來
ノ療法ナリ今ヤStrin氏又此療法ニ由テ全治セシ數例
ヲ報告セリ、

(十二)梅毒性潰瘍ニ格魯謨酸 ノ効アルヲハ昨年ノ雜
誌ニ於テ已ニ記載セシ所ナリ今A.Krumer氏又此法ノ効
アルヲ報告セリ其法ハ銀探子ヲ酒精燈上ニ紅熾シ之
レヲ「コロム酸」ニ挿入シ其尖端ニ附着シタル者ヲ再ヒ
燈上ニ溶融附着セシメ冷却后之レヲ以テ潰瘍面ヲ塗擦
シ直チニ冷水ヲ以テ含嗽セシム

抄譯者曰、此法ハ全等己ニ木村教授ノ「クリニツク」
ニ於テ屢々應用スル處ニ可ナリノ効ヲ奏スルコトハ

經驗ニ由テ徵スル處ナレバ硝酸銀ニ比スレハ疼痛甚
シク又格別彼レニ勝ルトモ斷言スルコト能ハス然レバ
頑固ノ者及侵蝕性ノ甚シキ者ニハ屢々偉効ヲ奏スル
コトアレハ場合ニ由テハ試用シテ可ナリ

(十二)沃度仿謨ノ代用藥 トノ「アリストル」「ヨドル」
「リュヅール」「ソツキヨドル」及「デルマトール」等アリ
近時又「プロモーン Bromol (Tribrromphenyl)」ナル者ヲ發見
セリ之レ粉末若クハ膏劑トシ用エ或ハ乳劑トナシ創面
ニ偉効アリ其他「クレザロール」「Oresalol (Salicylarsol)」ナ
ル者アリZencic氏ノ發見スル處ニシテ水ニ溶解セス「アル
コール、エテル」ニ溶解ス「オイゲノール」「Euganol」モ只
「アルコール、エテル」ニ溶解スルノミ之レ七十%ノ軟
膏トシ用フルキハ「エクセーム」ニ偉効アリ「レチノー
ル」「Resinol」モ又水楊酸、石炭酸及オイカリプトス油ト
混シテ用フルキハ創面ニ良効ヲ呈ス

(十四)皮膚病ニ於ケル「イヒチオル」 E. Mourron 氏ハ

「イヒチオル」ヲ充血及毛細管擴張ノ皮膚病ニ稱用セリ

例之ハ「アクチ」鱗屑疹「ヘルペス」丹毒、「レフラ」特ニ

「エクセーム」ノ如キ者ニ効アリ

(十五)「オイロフエン」ト耳病 Edward Gids 氏ハ同病ヲ

凡テノ耳病ニ洗滌藥及撒布藥トノ稱用セリ其他又梅毒

性潰瘍非梅毒性ノ潰瘍ニモ應用セリ

(十六)「デルマトール」ノ一奇作用 George Wicke 氏ハ

創面ニ硝酸銀ヲ塗布シ之レニ「デルマトール」ヲ撒布セシ

ニ局部麻痺シ疼痛ハ直チニ消散セリト

(十七)結核ノ結列阿曾篤療法 Sommerbrodt 氏ハ千八

百八十七年來肺結核ノ「クレオソート」療法ヲ行ヒテ良

効ヲ得タリ其量ハ初メ少量ヲ用ヰテ漸々増量シテ一

四一八、〇ニ至ル縱令増進セル者ト雖モ効アリ氏ノ報

告ニ由レハ之レヲ用フルキハ咳嗽咯痰消失シ盜汗止ミ

食欲進ミ營養大ニ快復シテ体重頓ニ増加シ肺ノ微瘰モ

消失セリト之レ獨リ内科的疾患ニ上ラス外科的ノ結核

ニモ効アリ其用法ハ膠囊ニ包ミ(クレオソート)〇、一肝

油適宜)テ與ヘ或ハ健質亞那丁幾共ニ牛乳或ハ酒類ニ

混シテ用フ用時ハ決シテ空腹時ニ與フヘカラス必ス三

食后ヲ撰フヘシ其他新鮮ノ空氣、滋養品、肺体操等ハ無

論怠ルヘカラス、結列阿曾篤ノ結核ニ効アルハ蓋シ制

菌作用ニ依ル者ナリ但シ此療法ハ諸種徵候消失シテ治

癒セリト看做セシ者ト雖モ持續セサルヘカラス

◎肋膜炎ノ病因ニ就テ

(Zeitschr. f. Klin. Med. XXII. 1 U. 2. P. 22.

1893.)

Dr. M. Jakobski 氏ハ五十二人ノ肋膜炎產物ニ就テ

「バクテリア」上ノ試驗ヲ行ヒ他ノ「リテラツール」ヲ集

メテ三百人ノ患者ニ基キ左ノ結果ヲ得タリ

〔第一〕總テ肋膜炎ハ其產出物中ニ「バクテリア」ヲ必スシモ証明シ能ハサルモ其原因ハ「バクテリア」ニ歸セサルヘカラス彼ノ寒胃及從來記載セラレテ原因ト見做サレタル者ノ如キハ「バクテリア」ノ發育ニ向ツテ好機ヲ與フルノミニノ只タ之レヲ誘因スルノミ

〔第二〕一ノ「バクテリア」ヲモ証明シ得ヘカラサル漿液性及ヒ化膿性滲出物ヲ有スル者ハ結核性ノ者トシ可ナリ勿論滲出物ノ檢査ハ數回之レヲ行ヒ殊ニ培養及顯微鏡檢査ヲ怠ルヘカラス又疑ハシキ滲出物ハ動物ニ種植スヘシ此目的ニハ漿液膜腔假令ヘハ肋膜腔及腹腔ヲ良トス

〔第三〕「バクテリア」ノ存在セザル化膿性及腐敗性滲出物ヲ以テスレハ此際腐敗性肋膜炎ヲ來タス玆ニ於テ原病ノ徵候及滲出物ノ性質ハ其診斷ヲ決スルコ

ヲ得ヘシ此場合ニ於テ「バクテリア」ヲ發見シ能ハサル者ハ該「バクテリア」ノ一定ノ病機ヲ喚起セル后チ死滅スルカ或ハ一定ノ化學的產物(バクテリア)ニ由テ滲出液ヲ生スルコアルヲ以テナリ此ノ如ク「バクテリア」ノ化學的產物ニ由テ化膿ヲ起シ得ベキハ充分世人ノ知悉セル所ナルベシ

〔第四〕特發性非結核性肋膜炎即チ「ロイマチス」性肋膜炎ノ多數ハフレンケル氏ノ「バクテリア」ニ因スル者ニシテ其他種々ノ「バクテリア」モ之レカ原因ヲナス者ナリ特ニ「ストレプトコックス、ヒオゲーネス」ニ於テ然リトス

〔第五〕化膿菌ヲ有スル特發性肋膜炎ノ漿液性滲出物ハ「フレンケル」氏ノ「ザプロコクケン」ヲ有スル者ニ比スレハ大ニ化膿ノ傾向アリ故ニ豫后ヲ定ムルニ際シテ注意セサルベカラズ

〔第六〕肺炎ト同時或ハ其后ニ來レハ肋膜炎ハ其原因チ

フレンケル氏ノ「バクテリア」ニ歸スルヲ得ヘシ

而シテ此種ノ肋膜炎ノ可哀ナル經過ハ「フレンケル」

氏ノ「バクテリア」ノ生活力ニ關スルカ如シ

〔第七〕化膿菌チ有シ且ツ窒扶斯或ハ結核等ノ經過中ニ

來レル膿性滲出物即チ窒扶斯或ハ結核菌等ノ他ニ

侵害セラレタル組織假令ハハ腸潰瘍或ハ肺腔洞ヨ

リ侵入セル他ノ菌チモ有スル者ハ混合感染ト見做

サ、ルヘカラス

〔第八〕單ニフレンケル氏ノ菌ニ因スル肋膜炎ハ膿膿菌

或ハ此兩種ノ菌チ有スル者ニ比スレハ一般ニ輕易

ノ經過ヲ取ル者ナリ之レ獨リ預后ニ向ツテ要用ナ

ルノミナラス治療上ニ對シテモ亦重要ナル件ナリ

之レ膿膿菌殊ニ「ストレプトコックス、ピオゲーチ

ス」ニ由ル者ハ其滲出物チ全ク排除スヘキヲ以テ

ナリ又此場合ニハ肋骨切除ト共ニ肋膜切開チ根治

療法トノ屢、行フヘキヲアリ

◎尿中胆色素証明ノ鋭敏ナル試驗法

(Berliner Klin. Wochenschrift 1893 No. 5.)

「ロージン」氏ハ「ゼナトール」氏ノ「クリニック」ニ於テ

尿中ニ於ケル胆色素ノ僅微ナル量ト雖モ之レヲ証明シ

得ヘキ尤モ無害且ツ單一ナル新法ヲ試ミタリ此反應藥

ハ十立方仙迷ノ沃度丁幾ト百立方仙迷ノ亞爾箇保兒ト

ヨリ成ル者ニシテ尿試驗管チ少シク傾斜シ其上層ニ此反

應藥ノ二三立方仙迷ヲ注ク者ナリ此試驗ニ際シテ若シ

尿中ニ胆汁ノ存在スルキハ尿ト反應藥トノ境界ニ於テ

稍々久シク持續スル所ノ綠色ノ輪ヲ形成シ若シ現存セ

サルキハ灰白色或ハ無色ノ輪ヲ形成スル者ナリ

◎外傷后ノ神經障害ニ於ケル

「マンコップ」氏症狀ノ價値ニ就テ

(Berliner klin. Wochenschrift 1892. NO. 43.)

「ストラウス」氏ハ外傷后ノ神經障害ニ於テ「マンコッ
プ」氏症狀(疼痛點ノ壓迫ニ由テ脈數ノ増加)ノ缺損ス
ルキハ果シテ詐病ト見做シ得ヘキカチ試験セリ即チ氏
ハ身体ノ一定部ニ於テ疑ヒナク疼痛ノ現存セシ患者ニ
就テ此症狀チ俱有スルヤ否チ試験セシニ五名中三名ノ
患者ニハ存在セカリシヲ証明セリ之レヲ以テ氏ハ試
驗ノ積極的成績ハ察病上ニ價值チ與フルモ其消極的成
績ハ之レカ價值ナキヲ証セリ

◎「トリオナール」ニ就テ

(Neurol. Centr.-Bl. XI. 24. 1892.)

「ブリー」氏ハ「ボーン」ノ精神病々舍ニ於テ「トリオナ
ール」チ催眠藥トシ一乃至三瓦ノ量ヲ用ヒ數十名ノ患
者ニ就テ試験セリ即チ其患者ハ「メランコリ」―「ヒポ
コンテリ」―「ハルチナチオン」等ノ種々ノ精神病者ニ

ノ「トリオナール」ハ常ニ良効チ奏シ又能ク睡眠ヲ促カ
シ一般不良ノ副作用ヲ呈スルコトナシ而シテ其作用ヲ現ハ
スヤ「ズルフォナール」ニ比スレハ速ニシテ「デトロナー
ル」ニ比スレハ其作用ノ久シク持續スルニ由テ二者ニ
勝レルコト著明ナルコトヲ確メタリ

◎レプラ知覺麻痺ニ神經牽引法

(Amer. Journ. of the med. Science. 1891. Juli.)

A. Mitha氏ハ「レフラ」ノ知覺麻痺患者五十七人ニ就キ
神經牽引法チ施セリ其七名ハ一側ノ坐骨神經二十五名
ハ兩側ノ坐骨神經十三名ハ尺骨神經ニシテ此四十六回中
十四回ハ恢復シ八回ハ僅カニ輕快シ廿四回ハ毫モ輕快
チ見カリシ氏ハ此輕快カ屢々暫時的ノ効ナルコトヲ言ハ
スシテ病機ノ早期ニハ此手術ヲ賞用スヘキ者トセリ之
レ術后ニ患者カ著シキ輕快チ感シ潰瘍ハ速ニ治療シ患
者ノ全身症狀モ亦大ニ恢復スルヲ以テナリ

◎「トイクリン」

(Wiener med. Presse Bd. XXXN. Hft. 6.)

凡テ有機小体ノ侵襲ニ因スル局所疾患ヲ治スルニ際シ該局所ニ實性充血ヲ起サシメ以テ其効ヲ收メ得ヘキヤノ問題ハ今尙稍々疑ヒナキ能ハス而シテ此種ノ局所刺戟藥ニ乏シカラズ「モーゼチヒ、モルホーフ」氏ハ他ノ有害作用ナクシテ交感神經ニ向ツテ強ク作用ヲ現ハス所ノ物質ヲ植物ヨリ得ラレタリ此物質ハ之レヲ用ヒタル局所及周圍ニ持續性ノ充血ヲ呈スル者ニノ局所結核ニ對シテ大ニ治療上ノ價值ヲ有スル者ナリ此者ハ「Teucin; scordin depuratuminum」ノ越幾斯ニノ唇狀窩ニ屬スル「トイクリン」ヨリ得タル者ナリ氏ハ之レヲ「トイクリン」Teucin. ト名ツケ黒褐色ニシテ草樣ノ香ヲ有スル苦味液ナリ而シテ頗ル硫酸鹽類ニ富ミ水ニハ種々ノ比例ニテ混合シ得ヘシ氏ハ之レヲ病根ノ近接部

ニ皮下注射トシテ用ヒ其作用ヲ二種ニ區別セリ

第一ノ作用ハ全身反應ヨシテ此反應ハ試驗ニ由テ証明シタル健康ナル者ニモ有機小体ノ侵襲ニ因スル局所病ヲ有スル者ニアリテモ規則トシテ殆ント正規的ノ形態及持續ヲ有ス而シテ此全身反應ハ殆ント實型的ニ經過スル熱ノ狀態ニシテ規則トシテ十乃至十二時間以內ニ消退シ屢々短小ナル寒戰ヲ以テ來リ「フォルクマン」氏ノ所謂無毒熱ノ狀態ト異ナルコトナシ第二ノ作用ハ局所ニ於ケル種々ノ強度ナル充血ニシテ病機ニ對シテ種々ノ作用ヲ現ハス所ノ者ナリ局所結核ニ於ケル作用ハ結核性浸潤ノ已ニ破潰ニ傾ケルヤ否ニ關スル者ニテ乾酪變成ニ罹レル者ハ規則トシテ急性炎症ノ下ニ脱落セラハ然レモ新鮮ニシテ未ダ破潰セサル浸潤ハ吸收ニ由テ消失セラル、者ナラン

氏ハ滿五年間「トイクリン」ヲ以テ寒性膿瘍、結核性水

脈腺炎、狼瘡「アクチノニコーヂス」ニ應用シテ良結果
ヲ得タリ通常患部ニ近接シテ三五ヲ皮下注射トノ與ヘ
タリシモ氏ハ又内服トノ殊ニ健胃劑トノ(〇、五ノ「ト
イクリン」越幾斯チ「ゲラチン」囊トノ)試ミシニ實際食
慾ヲ興進セシメタリト云フ

(以上六項藤井伊之吉抄)

二 雜 錄

◎完全なる産婆養成所と説くる事に

就て

縁 山 人

世の進歩するに従ふて、衛生制度の發達せざるへから
ざるは、固より其所なり。近時社會の開明に伴ひ、千百
の事業驟々として進み、稍其權衡を得るに至りしは、頗

る喜ふべき事なりと雖も、獨り産婆養成の如きは、未だ
充分なりと云ふへからず。豈是れ衛生上に於ける、大な
る欠點として、吾人醫家の憂ふべきことにあらずや。

今日社會の趨勢を觀察するに、世人か衛生の普及實施
に喋々する者、敢て少なきに非らずと雖も、是れ多く
は、皮層的の勧誘に止り、實施的の勞力を致す者稀な
り。見よ、衛生會の如き、一時諸方に群起せしと雖も、流
行の潮勢漸く減退して、今や落日汝城の有様を呈する
に非らずや。之れと同しく、産婆養成の如きも、一時は
規則的、寧ろ壓制的に勧誘し來りしも、流行の反動は反
て今日の亡狀を呈するに至れり。現今市若くは郡村に
於て、産婆講習所なきに非らずと雖も、之れ多く不規
律、不完全の者にして、寧ろ名有りて其實なき者と云は
ざるへからず。

人若し人類の生活年間で、如何なる年齢か最も多く死

亡の不幸を取るかを觀察せば、自ら完全なる産婆養成の必要を知得せん。近來醫學及衛生制度の完備せしにも係らず、産婆の幼稚なる事は、誰人も是認する所なり。今日の所謂産婆にして、一定の學術を有する者は、僅々指を屈するに止り、其餘は悉く世俗の物好者なる者か、口糊主義に之れを業とするのみ、若し夫れ表面に醫學の進歩を見るも、裏面に於て衛生制度の不完全を呈する時は、何にして貴重なる、多數國民の生命を保護し得べき。

然りと雖も、余は允勝今日の産婆をして、悉く産科醫の如き學術と、經驗を有せしむる事を願ふ者に非らず。只少なくも、完全なる産婆的の教育を修得し、多少學術的の技量を有する者を、民間に得ん事を望む者なり、蓋し産婆養成の如きは、固より社會公衆の健康を保つに、重大なる關係を有する者なれば、縦令多量の公金を之れ

に費すも、決して無要の事業に非らざるなり當路者諸氏よ願くは深く此點に注意あらん事を。

本 會 紀 事

◎會員動靜

- 金澤病院醫員飯森益太郎氏 は今般第四高等中學校助教授に任せられ醫學部勤務を命せられたり
- 第四高等中學校教授川瀬泰輔氏 は六月廿日高等官六等に陞叙せられたり
- 米村吉太郎氏 は徵兵検査を終へ去月十五日歸澤せらる
- 田中善敬氏は 新瀉縣新瀉市淺田決氏の許へ轉せらる
- 陸軍三等軍醫鶴見金十郎氏は 擔荷演習の爲め名古屋

屋へ出張せられたるか去る四日歸澤せらる

○黒柳精一郎氏 は曩きに地方漫遊の途に登りたるか去る三日歸宅せられぬ

○第四高等中學校醫學部主事小林廣氏 主事會議へ出席の爲め出京せられたる同氏は本月日歸校せられぬ

○宮橋行隆氏 豫て上京の處先月廿日歸郷せられたる由

○高安右人氏は 暑中休暇を機とし去る五日上京せられたり

○田中正鐸氏 は今度醫學大學に開會すへき解剖學會へ參同の爲め去る十日上京せられたり

○岡島良吉氏 久しく東都に遊學せられし同氏は今度木町二番丁の自宅に於て開業せられぬ

○森島彦夫氏 今度小兒科撰科を卒へ一先歸省せられしか來月初旬頃再ひ上京せらるゝ由

◎新入會員

醫科二年生 西川清三郎

堅町二十七番地 木越七郎 方止宿

富山縣礪波郡北山田村大字守 二千十七番地

◎第四十五回常集會記事

同會は去る十六日午後二時より醫學部に於て開きぬ此日出席する者二十二名左の演説あり午後六時散會せり

○山田謙治氏(子宮肉腫の一例)

氏は近頃金澤病院に於て子宮の「サルコム」に全子宮摘出術を行ひ良成績を得たる一患者の病歴及手術の順序を報告し之れを鏡下に檢せしに小圓形細胞肉腫となりしと

◎金員寄贈

會員山田謙治氏は 本會へ金參圓を寄贈せられぬ余們は此に特筆して其好意を謝す

◎寄贈雜誌

熊本醫學會雜誌第六十七號	同會
大坂興醫學社月報第五十三號	同社
京都醫學會雜誌第六十五號	同會
大坂醫學研究會雜誌第十四號	同會
法醫學雜誌第八十五、六號	同會
國家醫學會雜誌第七十三號	同會
產科婦人科研究會月報第二十五號	同會
東京醫學會雜誌第七卷九、十號	同會
盛醫會月報第三百三十六號	同會
增訂外科總論上中二卷	桂 秀 馬君
實用眼科學下卷ノ一	瀨 尾 昌 索君

◎正 誤

前號の紙上會計報告の條に於て『一金三二圓七十七錢三

(本會紀事)

◎評議委員會記事

厘前年度拂不足』の十七字を脱せしを以て此に正誤す
 本會の維持法等に關し去月十日評議委員會を開設せり
 即ち連年の會費未納者あるを以て會計上收支相償ふ能
 はす二十五年會計決算報告の如く同年度に於ては支
 出上七拾圓余の不足を生せり此の如くして進むときは
 勢ひ本會の衰頽を來すに至るへし依て此際大に改革を
 なし會費忘納の會員には今一應督促をなし且つ雜誌の
 紙數を減して可及的諸般の費用を節し以て收支相償は
 しめんとを企圖し尙會費未納の者あるときは本會雜誌
 に其姓名を掲げ規則に依り斷然處分するの方針に一決
 せり

醫 海 時 事

(二百九)

◎石川縣醫會能美支會

能美郡支醫會は去月廿六日午前十一時を以て小松公會堂に於て開かれ來會員八十名にして先づ北野恒夫氏開會の主意を述へ今度會頭湯淺剛氏他へ轉籍に付き更に最も名譽ある學識ある會長を選擧せられんとを望むと述へ引續き會長を撰擧せしに滿點を以て

醫學士

小林文泰氏

當撰せられたり然るに同氏は家事の都合を以て上任を辭退したれども事務員一名を小松に置きて氏を補助せしむるとし岡田重正氏同事務員に撰定せられ漸く小林氏の承托を得たり次に演説に移り

恐水病實檢説

岡田重正

十二指腸虫實檢説

高柳文六郎

治療上の要點及び實布的利亞の學説

小林文泰

諸氏の演説あり了りて會員一同松島樓に移り懇親會を

開き先づ北野恒夫氏開會の主意に併せて今や本會の組織一變して今回の如き盛會は未曾有なり尙ほ前途の隆盛を祈る旨を述べ次に堀他喜雄、西滋隆兩氏及び野村、姉崎兩郡書記の席上演説あり數名の校書酒間を周旋し午後七八時頃退散せり因に今回常撰されたる役員を掲ぐれば左の如し

會頭 小林文泰

副會頭 北野恒夫

幹事 高柳文六郎 淺田彰齋 岡田重正

松田常三郎 前川某

◎輪島病院

能洲輪島病院は今度新築落成と俱に器械も充分に整頓したば院内に一大改良を行ひ各科受持を定め専ら患者の利便を謀りたるにぞ患者も頼に増加し昨今病室増築の協議もありと云ふ各科の受持は左の如し

院長 多田寬 内科

醫員 佐川 忠茂産 科婦人科小兒科

醫員 中川 啓次 眼科

醫員 岩本 清 外科

又た同病院藥局長大村俊武氏に今度辭職せるに付き第
四高等中學校藥學科卒業生井村直二郎氏は同局長を命
せられたり

◎入學生

今度第四高等中學校に於て執行したる醫學部及び藥學
入學試験に及第したるは左の十七名なりと云ふ

北 豐作 高峰 旬造 高橋 保太郎

小坂 與吉 岡部 元次郎 淺野 榮

藤井 温良 竹村 輯説 神保 正長

佐野 里吉 松神 啓三 藤岡 勝治

白井 精一 五金 加一郎

(以上醫學部)

登田 忠三郎 安田 順太郎 林 常雄

(以上藥學)

◎藥品監視員

石川縣警部小林順二、柴田正直、土橋兼孝、匂坂信廣、
川島正久、松岡公達、大橋真篤、五十嵐壽吉、今村眞橘の
九氏は一昨日何れも藥品監視員を命せられ同警部飯田
精四郎、澤田克信兩氏は同日同監視員を命せられたり

◎石川縣醫會石川郡支會

石川郡支醫會は去月三十日正午より同郡役所樓上に於
て通常會を開きしに出會者五十餘名にして定刻に至る
や會頭後藤與五郎氏先づ開會の旨を告げ且つペッテン
コオフエル氏服菌試験に就き一場の談話を爲したり次
に會員森田嘉壽雄氏は過般發布ありし酒精營業稅則中
直接開業醫師に關係ある部分を報告し會員得田易氏は
十二指腸虫の研究的實驗談會員今村氏の虎列刺患者治

療の實驗談あり次に得田氏の發議に依り次會より醫術上緊要の問題を掲げ討論に附することに決し午後五時閉會せしか閉會後更に松任町日新樓に於て前幹事宮崎春平氏の慰勞會を開き酒酣なる頃數番の演說あり數名の紅裙酒間を周旋して中々の盛會なりしといふ

○函館醫況

北海道函館通信

○同区内開業醫ノ數七十余名ニシテ内醫學士一名陸軍々醫二名アリ

○公立病院二個アリ一チ函館病院ト稱シ一チ豊川病院ト稱ス共ニ區費ヲ以テ成立シ甲ハ醫學士佐藤廉氏ヲ長トシ開拓使廳ヨリノ歴史ナ有シ貴族の院ヲ以テ目セラレ乙ハ履歴免許醫ヲ載キ區民共立ノ歴史アリテ平民的の院ヲ以テ評セラル兩院共其經費ニ於テハ支出ヨリ收入高超過スト雖此組織不完全ニシテ醫術ノ進歩ヲ圖リ世ノ好摸範トナルヘキ價値ナシ心アル者ハ

二院ヲ廢シ更ニ完美ナル一院ト成サハ如何トノ說モ折々醫會ニ湧出スレモ時運未タ來ラスシテ少シク遺憾ナキ能ハス

○私立病院四個アリ一ハ深瀬病院ト稱シ院長ハ久シク函館病院長ヲ勤メ門家の名望家ニシテ且ツ富豪ナルカ故ニ函館病院ヨリモ優ル大厦ヲ新築シ進取ノ氣見ル可キ者アリ露國ヨリ贈レル勳章ヲ有セリ一ハ五稜眼科院ト名ケ井上遠也氏ノ門人武村敬太郎氏外一名ヲ以テ組織シ北海一等ノ評アリ日新醫家トシテ毫モ耻ツル所ナキ技術ト社交ヲ有ス一ハ梅毒病院ト稱シ醫師二名アリ一ハ潮留病院ト稱シ院長ハ産科専門家トシテ得難キ實地醫ナリシモ不幸ニノ不歸ノ客トナル
○開業醫一ヶ月ノ收入大凡四五拾圓ヨリ三百圓位ナラン
○醫風及社會ノ狀態ハ金澤ヨリ後ル、數年ナラン

醫師ノ待遇甚々冷淡ニシテ殆ント商業家ト同視セラ

ル、ハ心外ノ至ナリ

○区内人口六万有余ニシテ醫師ニ不足ヲ感セス

○醫學的教育ハ一般教育ト共ニ甚々後レタル姿ナリ

◎落花紛々

蝸牛庵居士

反動機關と傍觀機關

觀潮樓主人か衛生療病志上「傍觀機關」なる一欄を設けて醫學界の爲めに大なる氣焰を吐きし事は世人の知る處ならん而して彼は其第一着に近時山谷氏の手に成れる醫海時報を以て二三の老策士か反動の機關なりと云ひしより端なくも茲に一條の戰端を開き今や奮戰劇討火花を散して其是非を決せんとし醫事週報亦た此間に介在して稍もすれば時報を襲はんとす余輩は未だ其曲直を知らずと雖も是れ實に醫界に於ける近來の見もの

なり

北里氏と傳染病研究所

大日本私立衛生會か北里氏の爲めに傳染病研究所を芝に設立せんとするや同區民の之れを拒みし事は前號の誌上に報道せる處なり爾來兩者の間互に委員を撰ひて事を平滑に治めんとせしも其議遂に調はすして破談となれり北里氏斯る紛議ある傳染病研究所長となるを屑とせずして其職を辭せんとす是れ實に社會体面上より見る時は一小事なるか如しと雖も醫學の前進を沮絶する事幾許なるを知らず

當局者は之れを如何に處置する乎

第四議會に於て滿場異議なく可決せられたる傳染病研究所も今や北里氏の辭職と共に其形を失はんとす僅かに芝二三の喧賣者の爲めに此重要なる事業の中途にして挫折せらるゝは甚だ奇怪たらさるへからず之れか監

皆者たる内務省は之れを何に處置するか此際衛生會は宜しく挺身盡力して北里氏の爲めに其素懷を達せしむるの責を全ふせよ

金澤醫會

金澤醫會か其開場式を舊甲種醫學校内に行ふや市内の紳士雲の如く集り會員又蟻の如く來同す而して祝詞短文を寄せて將來に於ける希望を述ふる者數十通の多きに至れり醫會從來に於ける有様は今更茲に言ふを欲せずと雖も開場式後の醫會は此祝詞此短文に對するも豈從來の如くして可ならんや

入痘種接

近時新誌の報する處に據れば富山縣の醫師天然痘漿を取りて之れを他に種接し痘瘡を豫防せんとして反て之れを傳搬せし科に醫業を停止せらる而して如斯醫師を出す事三名に及ふ富山縣何を夫れ愚昧の醫を有するの

多きや

御家騒動の再燃

昨年一たひ終局を結ひたる相馬等事件近來又々再燃して世間に喧傳す余們は事の果して實説なりとは信せずと雖も若し万一にも之れを事實とせん乎醫海名譽の某氏等の心中目下果して如何

第三回日本醫學會

同會か明治二十八年に京都に於て開かるへきは略ぼ定まりたるか如しと雖も現今大に其不可を論する者ありて若し之れか開設を見るに至らば京都の醫師は意氣地なく斯道の不忠者となす京都醫師今日の覺悟果して何れに従屬すへきや

◎再ひ週報記者に告ぐ

余輩は前號の紙上に於て醫事週報の怨言に答ふと題し記者の爲めに聊か辨する處ありしに彼は其大体に於て

異議なしと答へたり然らば今や彼我の悶着は茲に終局を結ふへき乎否々決して然らず如何となれば彼は其答文の終りに於て本會か反動機關の提灯持なりと云ふか如き妄言を放ちて其跡を濁せり記者は如何なる點を以て斯の如き事を言ふか金澤醫學會は決して時報の辨護者に非らず人各其信する處を云ふ之れ決して提灯持とすへからず山谷氏か筆巧者なるを以て之れを達筆なり云ふ豈提灯持ならんや若し之れを以て提灯持なりと云はく天下何物か提灯持ならざる者あらん醫海の爲め椽大の筆を振はん事を乞ふたるは一の希望のみ是れをも猶提灯持なりとせば週報子か屢々二三人物の爲めに提灯を持ち或る商店の爲めに提灯を持ち而して又週遊讀者か嚴華の爲めに提灯を持ちたる事週報紙上に歴々として存す記者乞ふ提灯持の意を誤る事勿れ

(醫海時事)

廣

告

醫學士桂秀馬先生纂著

增訂 屈氏外科總論 第二版 完結

全部三冊精圖五十餘面增挿定價每冊壹圓五拾錢 郵税金八錢

本書第一版ハ文章ノ流暢ニシテ解シ易キト學理ノ明晰ニシテ幽遠ナルト實地家應用ノ便益ト學生修學ノ模範タルトニ於テ迥ニ時流ニ卓越ストノ好評ヲ博シ開版以來凡ソ一年餘ニシテ忽チ數千部ヲ賣盡クセリ先生更ニ百家ノ書ヲ參考シ之ヲ吾國ノ實驗ニ徵シ以テ大ニ前版ノ改削増補ヲ行ハレタリ依テ先生ニ乞テ第二版ヲ茲ニ梓行シ今ヤ完成ヲ告ク本書ニ意有ルノ諸君速ニ來リテ一本ヲ購ヒ玉ハスンハ數月ヲ出スシテ嗟嗚ノ悔アラソ謹テ告ク

東京市本郷區湯島通坂町

發行元

金原書店

賣捌

島村利助○丸善商店○南江堂
半田屋○文詳堂

(廣 告)

醫科大學眼
科教授醫學
博士

河本重次郎先生校閱

瀨尾 昌索先生纂著

實用眼科學

中 卷

實價 金八拾錢
郵稅 金六 錢

訂正第二版

本版ニ於テハ精圖拾數個ヲ增加
シ増補改訂セル所少カラズ從テ

面目ヲ一新セリ今ヤ發兌近キニアリ此段豫メ愛讀諸彦
ニ告グ

上卷第貳版

實價 金七十錢
郵稅 金六 錢

下卷之壹

實價 金八十錢
郵稅 金六 錢

下卷之貳

目下校訂中、不日
印刷ニ附フベシ

發兌元

明治二十六年第六月
東京市日本橋區本
石町四丁目四番地

成功堂

(二百十六)

拜啓益御清祥奉賀候陳者辱交諸君に對し時々御伺可申
等の處開業后雜事多忙にて其意を不得屢々敬禮を欠き
候段幾重にも御海容被降度候乍畧儀茲に新誌を以暑中
御見舞申上候也謹言

明治廿六年七月

函館船場町

吉田茂人

小生義過般金澤病院ヲ辭シ上京ノ處今般歸郷左ノ地ニ
假開業仕候此處辱交諸君ニ謹告ス

越后國刈羽郡南條村

藍澤直方

第四高等中學
校教授醫學士 有松戒三先生纂譯

外科通論

全一冊

定價一圓六十錢
郵稅金八錢
紙數四百十八頁
精圖二百五十餘個

此書は有松戒三先生か本邦に完全なる外科通論なきを慨し教授の餘暇を以て數多の外科書を參考し其要を撰ひ粹を抜き編纂せられたる者にして論旨斬新行文流暢句々生色を帶ふ若し夫れ密畫の多數なり印刷の鮮明なるに至りては多く其比を見ざる處なり弊舖幸に發兌の恩命を被り今や是れを醫學者諸君に紹介するの榮を得たり苟も外科の濫奥を極め手術の輕妙を期せんと欲する者は此書を措て他に求むへからざるなり

東京市本郷湯島切通坂町二十一番地

發兌元

金原寅作

賣捌所

日本橋馬喰町島利○日本横通三丁目丸善
本郷切通南江堂○本郷春木町半田屋

陸軍々醫監從五位
醫學士

長瀬時衡先生関并序文
能勢靜太先生校補
今井亥三松先生編著

增補新方類函

第二版

全一冊
鮮綴中本印刷
百餘頁正價金
五拾五錢郵稅
金六錢

(廣告)

本書第二版ハ昨年一月ヨリ實施ノ改正日本藥局方ニ據

リ各藥ヲ伊呂波順序トナシ其主治効用極量用量法ヲ掲

ケ且歐米諸大家醫科大學符方中斬新正確ナル處方數萬

ヲ羅列シ處方ハ病名ト藥名ニ據リ索引シ得ヘク以テ臨

床上ノ便ヲ計レリ附録ニハ實地治療醫家ノ備忘參考ニ

供セン爲メ前版ニ掲ケサル事項ヲ追載シ要ヲ摘ミ粹ヲ

抜キ一讀緊要點ヲ開發シ得ヘク大ヒニ前版ノ誤謬ヲ訂

正スル等殆ント體裁ヲ改新シヨリ本版ニ於ケル附録新

加目次ハ左ノ如シ

●蒸氣吸入 ●皮下注射 ●瀉腸劑 ●尿道注入劑 ●腔注入

劑 ●外科的防腐劑 ●外科的防腐綳帶品 ●齒科用藥品 ●

飲用水檢査法 ●尿檢査法 ●胃液檢査法 ●解毒藥品 ●結

核黴菌檢査法 ●毒藥劇藥極量 ●年齡容量比較表 ●瓦蘭

謨氏 ●比較表 ●重量比較表 ●布魯仙篤量表 ●新藥極量

表 ●瓦蘭謨量 ●各種容量比較表等ヲ蒐集シタレハ實地

醫家必須ノ良書ナリ江湖諸彦前版ニ倍シ陸續愛願アラ

ン事ヲ敢テ請フ

發兌

東京日本橋區馬喰町
大坂心齋橋通一丁目

島村利助

書林

京都二條寺町通
東京日本橋通三丁目

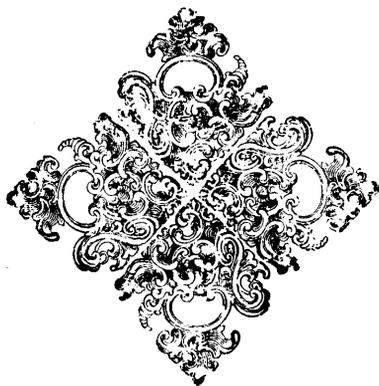
松村九兵衛
若林茂一郎
丸善商店

(二百十七)

正誤廣告

小生か本會雜誌第三十八號「實驗雜俎」欄内に掲載せし
「丹毒ノ聽器ヲ經テ咽項ニ蔓延セシ一例」てふ報告中丹
毒の第四日より患者か高度の重聽を來し五日間計持續
せし事を脱漏したれば乍遅延茲に正誤す

(飯森益太郎)



明治廿六年七月三十一日印刷
明治廿六年八月六日發行

非賣品

編輯者 瀨戶卯三郎

發行兼印刷者 吉本次郎兵衛

發行所 金澤醫學會事務所

石川縣金澤市西町藪ノ内一番丁一番地

石川縣金澤市石浦町二十三番地ノ二